

17

木村陽平
木村絢

は
じ
ま
り
の
う
た



はじまりのうた

木村陽平（空師）

木村絢（糸と布の作家）

はじまりのうた

陽平..僕は名古屋近郊の稲沢市生まれで大学卒業するまで愛知県だったんです。大学3年の時に宅地建物取引主任者って資格を受講していて、まあ、僕は成績良かったんです。全国模試一位とか取って「宅建の世界で俺、最強」みたいな感じで思っていた。名古屋で沢山の友達を見ていたなかで「あっ、この中で僕、一番頭良いんだ」って調子乗っていたんですよ。そのまま就職活動に入ってから銀行の内定もあって、銀行員になる予定だったんですけど、ある時、テレビから流れる殺人事件を眺めていたら、その頃の僕は法治国家やから法律最強と生きていて、それはたかだか宅建の民法とかそんなレベルなやけど、何か自分が危険が降りかかった時に何も力にならんし、守ってくれへんのやなって思ってた。それがすごくインパクトがあって、日々ご飯が食べられなくなってきたんですよ。食欲がなくなってきた、それをどんどんどん深く考えていたら、電車に乗れなくなってきたんです。あの閉鎖的な空間が苦手になってきて、美容室とか人の車に乗せてもらうとか、そういう自分ではちょっと逃げにくい場所ってあるじゃないですか。そういうのが苦手になってきて、まあでもそれもいつかは治るやろと思ってたんですけど、暮らせど就職する4月までに症状が改善しなくて、入社式の3日前に辞退したんですよ。それで暫く家で悩んだんですけど、外にとか出なきゃいけない、引きこもりたくはないっていう意識はずっとあって。そんな時に和歌山の友達が紹介してくれた農家さんに居候することになった

陽平..出会ってはいらけど、敬語で話す感じやった(笑)。そこに私はいないけど近くに住んでいて。なんかその農家さんが困っていて、話聞いたらグッと涙が出るぐらいの話だったから、私、ご飯作りたいから言うて「木曜ランチ」という名前

陽平..そうそう(笑)。最初に行ったところがそこやっつて。そういうファームステイのシステムがあるって知ったのもそこね。海外にあるシステムでWWOOF(ウィーフ: World Wide Opportunities on Organic Farms)の頭文字で世界に広がる有機農場での機会)っていうのがあって、世界中にそういう場所があって、世界中の人が登録できて、日本には日本のWWOOFのホストがいる。ここに行きたいなって思っているのはWWOOFのサイトを介してメッセージを送るんですよ。ここからここまで行ってもいいですかっていうことを連絡して、労働力と宿泊費のトレードで、例えば週一回休みみでくださいってお願いしますが、いいですかっていうことで合意して行くシステムなんです。それでそれを利用して何箇所か回っていたんです。

陽平..それでそうこうしているうちに絢ちゃんとお付き合いが始まって拠点が欲しいという話になった時に、絢ちゃんの家族と竹林に行くことがあったんですよ。絢ちゃんのご先祖の土地で、そこに行った時に、本当は海の近くに住みたかったんですけど、

山に来た時に「うわっ、山ってすごいな！」と思って。その当時から自分で色々作るのが好きやったんですけど、何でもあるやん、枝も落ちてくる、燃やしてもあって、ワイワイうるさくしていても怒られない、「これ最高！」と思っつて。早速、結構、思い立ったが吉日の性格だったんで、この斜面で家を探そうと思って(木村さんの家がある山の斜面のこと)。休日二人で山の下からずっと空き家はないですかって聞いて回って、行き着いたのがここやっつたんですよ。それが26歳ぐらい。それで山に住んだからには山のこと知りたいなと思っつた時に、絢ちゃんが「森づくり塾」っていうのやっついているらしいので「ってチラシを持ってきたんですよ。それで森づくり塾に通うことになったんですけど、その塾長のうちの恩師になる方で、県職の方やっつて。和歌山県の林務課に勤めている方で、その人に出会って、山のこと教えてもらって、ちょっと間伐やってみないかっていうことで携わらせてもらってね。3年ぐらい働いて。29歳ぐらいの時に「空師(そらし)」って仕事を知ったんですよ。「空師の仕事、近くでないんすかね」って言っていたら、塾長が「和歌山城で、今、大きい空師の仕事をやっている業者がいるから手伝ってみないか」って。たまたま全国でも指折りの空師って方が隣の有田市(ありだ)にいたんですよ。それからそこで仕事させてもらって、技術をもらって、今に至るって感じですよ。空師の仕事は簡単に言ったら人とロープだけで木に登り巨木を切る仕事なんです。日本の木っていうのは戦後どんどん伸びていて、こんなところに家を建てたら絶対その木が伸びてくるやんってところが家を建てているので、近年そ



の木を切るっていう仕事の需要が増えてきたんですよ。林業と違って3Kの仕事で、まして高所作業やし、山師の人って口調とかも荒いし、見て学べみたいなどもあるから、なかなか続ける人がいなかったのかもしれないけど、「今になって聞くことな思ってた」って言われるんですよ。「全然使えないならん」と思ってた。ただ今までようやく「な」って言って頂いてね。でも空師の仕事を知った時からすごいなと思っただし、尊敬する気持ちもすごくあって、自分もそうなりたいたってずっとあったんで辞めようと思ったこともないし、体力的にきつかったし、精神的にもきつかったからかないけど、辞めたらどうかっていうことはなかったです。これ自分でもできるかもしれないなって思ったのが登り始めて5年くらい経って、33歳くらいですね。それまでは誰かもう一人一緒に登ってくれた人が欲しいなみたいな感じだったんですけど、自分で仕組みを考えて、自分で切りたい、切れるかも、これからやっていけるかもしれないと思ったのはそれぐらいです。今でも親方や先輩の現場に応援に行く立場なので、高野山の木と違って恐ろしく大きいから、それを切る人ってあんまりいないので、そこも必要としてくれていて、かといって自分の現場としてやりたいのもあるので、今は向こうへ行きつつ自分の現場もやっている感じですよ。技術って日々仕事しているから、技術面というよりは仕事に対する心構えみたいなところは場数やなって思っているんで、施主さんとの話し合いとか、こんな木を切るのかなって思った時の気持ちの

持ちようとか、そういう時に何を考えるのかとか、余裕とか、やっぱりまだまだ親方には敵わないですね。

自分の中で正しいことを追いかけて

陽平..木を切ることで正しいのになって思う時があったんです。例えば切り捨てて間伐するという方法で、何十年と育ててきた間伐材を残した木が正常に育つようにということ、その場に切り倒してすつと置いておくっていう方法なんですけど、その間伐された木ってすごく可哀想やなって。人間都合で植えて、ちよつと木が混んできたから切つて、その場に置いておくってめっちゃめちゃ可哀想やなって。それすつと頭にあつて切られる気持ちってどんなにかあってね。木が生えている所に家を建てて、木がでかくなつてきたら切るわけですよ。それは必要なやるけど、すごい人間って人間都合で、使える事って薪ストーブだったり、五右衛門風呂で利用するっていうことが僕の中の供養や。ただ木はどんどん出ているし、利用価値のある木って出ているのが出てきたので、その時に旋盤をしようとして、ランブシェードの製作を始めたんです。人間の欲のためには決して切りたくないけど、せめてその木にもう一度命を吹き込みたい思いがあつて。ただその仕事しませんが、言っちゃったら仕事なくなっちゃうし、生きていく上でシレンマっていうか、どんな仕事でもあると思うんですけど、そこを上手いこと自分の精神安定剤じゃなく、切らなくていいんじやないのって思ってた時に切つた木

は、ランブシェードとか加工品として使つてあげたいという気持ちが強かったりします。

陽平..そうやって削つたあとの木屑で、私は糸を染めるんです。何色に染まるか分からないけど大体染まりますよ。私は糸と布が好きなんです。何故か、子供の頃から染めたいとは思ってないんですけど、染めたらどうなるんやろうっていう気持ちが強くて。染めて色を出したいとか、この色やうわってふうには思わなくて拾い集めたっていう。繊維そのもので綺麗やと思ってるのでね。草木染の本とか見ると、彫刻家が作業後の木屑で染めていたっていう歴史があるみたいで、そうやって無駄にしないやなって。自分がやつた後に知つたことやけど、そういうやり方が面白いなって。織る前に紡いでいたんですけど、初めて糸を紡いだのは13年くらい前かな？その時は糸車とかも持ってなかったし、スピンドルでアナログなやり方で紡いでいました。まあ糸も好きやし、布も好きでいっぱいコレクションして、でもそれで何か作るっていうのはそこまで興味なくて、そこがちよつと悩みどころ。布が出来上がったからそこで自分のなかで終わるんです。気持ち、これでこうしてこうしようみたいなのがなくてね。でも実験したい気持ち。紡いだらどうなるんやろう。織つたらどうなるんやろう。染めたらどうなるんやろうって。辞められないんです。絶対に。前に陽ちゃんに、もし織るとか紡ぐとか作ることには時間が取られて家事が出来なかったりとか、いろんなことが疎かになつたりするんやったら、そした

ら別れたりっていうことになるんやったら辞める？って言われて、私、それやったら別れるかなって思うぐらい辞められないんです。必要なことなんです。でも別れるという選択にはならんけど、仮想ですけど、それぐらい辞められないことなんです。ずっと紡いでいたんです。

陽平..二人ともそうやけど、やりたいうようにやってきたって感じだよ。欲のままに生きてきたというか。

陽平..まあ、僕の価値観をいつも押し付けてしまふんやけど、何か成功する奴だつて思つてくれて、今こうやって生活ができる場所まで待っていてくれたわけだから、次は陽ちゃんの番やうって応援したい気持ちがあつてね。陽ちゃんって、さつきも言つていたみたいに、織つた布で何か作つてどうとか、それで何かをしようとか、欲っていう願望がないので、その極論言えは事業化するか、最終目標たぶん置いてないんです。だからそれでいつも喧嘩になつて、今その問題を解決しようとして試行錯誤中ってことなんです。

陽平..陽ちゃんとはパランスとれてるなって。二人とも僕みたいな性格やうって、多分この生活には慣れてないよね(笑)。かといって、陽ちゃんが二人おつても(笑)。

陽平..生活できてないよね(笑)。

陽平..陽ちゃんとお付き合い始めた時、僕は無職で貯金ゼロ、何にも能力がないのにすごく信じてくれて何の信用も分かんないけど「陽ちゃんやったら成功する気がする」とか言つてくれて、結婚まで行つてすくなくないですか？

陽平..好きっていうのは前提にあるけど、なんかこの人成功するなって分かるんですよ。私、こいつは駄目やなって。今、めちゃくちゃ儲けていたり、成功しているも、アカンなって(笑)。占いはないけど、スピリチュアルとか全然ないけど(笑)。陽ちゃん絶対何かをやる人。その時点で、ほんまにガラガラしているだけの若い男の子やうたけど、「な

くて世の中として、流れとして。例えばBさんには障害があった物忘れが酷くて、Aさんがめっちゃくちゃ覚えが良かったら教えてあげれば別にいいだけのこと。覚えてるんやったら言えはいいの。それでAさんが疲れても、それでもBさんは何か他で役立っているはずやから。人っていうのは全部一緒やと思ってるの。損も得も全部。誰かがめっちゃくちゃ損して、誰かだけが得しているってことないと思ってるの。絶対に一緒やと思ってるの。そこが揺るぎないんですよ。

陽平..僕やったら、忘れっぽいんやたらメモしとけよと思うから。

陽平..喧嘩の話ですよ、これ(笑)。何回でも言ったらいい。認知症の人とかでも、私、何回聞かれても何回も言うし。別に同じこと。なんで何回も聞くねんって思ったことないもん、人に。何回も同じ話する人とか、そういう人いるじゃないですか？またこの話やみたくないな。私は全然、話したいのやから、何回も言いたいぐらい話したい話なわけで、聞けばいいし、別に全く苦痛じゃないの。

古民家で暮らす

陽平..できるどころまでやりたいというのがあったよな。

陽平..頑なではないけど水は絶対欲しかった。こちらは湧水のスポットが

も見てるんですよ、合わなくて。旦那さんの方はストイックに自給自足を目指すけど、奥さんの方はもうちょっとゆるいのがいいみたいなの。

陽平..女の人、やっぱりさあ嫌になる人いるんじゃない。私は全然やけど。

陽平..良く付いてきてくれますね。

陽平..それは結構みんなに言われる。

陽平..みんなに言われるの？

陽平..ほんまによく言われる(笑)。それで嫌になる理由として、例えばシャワーがないとか。子育てして、ウチとかワットって漏れたり赤ちゃんした時にサツと洗えるお湯がないとか。こうお湯でどうにかしたい時、サツとやりたい時があるやんか。そういうのは何もなし、薪を取りに行かなあかんから服が汚れるやん、普通に、毎回。いっぱい木屑が付いちやうしさあ。薪をそおと持ってきてつって、そんなわけないから(笑)。家のなかにもいっぱい屑が落ちるやん。すごいイラついてくると思う。そういうことを気にしだすと、私、深癪症やっただけですけど、今はもう逆に散らかるんやたら散らかるで、それで全くいいけど。綺麗にキープしようというモードになったらキレだすと思う。私は0か100やから。もし陽ちゃんがすごく綺麗好きで常に綺麗にしているんやたら自分も綺麗にするけど、争いが嫌いなんで。木屑とか落ちてるのをいぢいぢい言ったり、自分がやるにしても此れ見よがしになるやん。歩いてる後ろからサツサツサみたいな(笑)。そんなのは嫌な気分ではないから、怒るのが嫌なんです。子供にも陽ちゃ

沢山あるところらしくて。たまたま本当に偶然が重なって。ネットは使っていないですよ。足で探しましたよ。

陽平..この家は最初屋根がズレていて雨漏り一杯してたんですよ。ザアアア。

陽平..旦那さん亡くなって、お婆さんが土地の地主やから、どうしても草刈りとか土地の管理をしに来なきゃいけないじゃないですか。娘が何人かいて、娘婿に車で乗せてきてもらって、草刈りしてもらうっていうことだったので、お婆さんすごく重荷やっただけみたいでね。それで会ってみたら売りたいっていう話やっ

陽平..二人でこういう家に住みたいねっていう絵を描いていたんですけど、その間取りと全く一緒やっただですよ！模型まで作っていたもんね。

陽平..作ってた(笑)。

陽平..暇かって(笑)。

陽平..無職やから時間はある(笑)。

陽平..無駄にね(笑)。

陽平..無職っていうかフリーターですからね(笑)。その当時、建てようかっていう選択肢もあつたんですよ。セルフビルドで。山の下に陶芸家の夫婦が住んでるんやけど、そこは自分で家を建てたんですよ。それを見て建てられるんやと思つて。土地

探してやるのもいいなって。土地も並行して探したよな。

陽平..農地とかね。畑とか、山とかね。山地とかすごく安いから。

陽平..そんでその頃セルフビルドで家建てましたみたいなのが割と出ていて、こんな人やっぱりいるんやなって本読み漁ったりしてね。

陽平..なんかできるかもって話していたけど、この家を紹介されてね。

陽平..見に来た日がすごく寒い日で、しかもすごい霧がかかっていた、雨が降るか降らないか、どんよりした天気の日やっ。外見はあんまり綺麗じゃなくて、鬼瓦も傾いた感じで、ちょっと絶対ここ無理って思つたんですよ、正直。でも一応、家の中も見せてもらうことになって、改めて見せてもらった日が快晴で、ドアを開けたら、「オッいいやん！」ってなつてね。

陽平..めっちゃめっちゃ歓迎してくれたよな。もてなすみたいなき感じ。ここに家族集まってるって、めっちゃ明るくて、お婆さんとかも山盛りになって、「いらっしやーい！」みたいな、「どうぞー！みたいな。大阪のおばちゃんみたいな感じだ(笑)。大阪の家にも何ってお爺ちゃんにお線香をあげさせてもらって。お婆ちゃん、陽ちゃんがお爺ちゃんに似ているとか言つてね(笑)。何でも作つたりするのとかも。お爺ちゃんが着ていた形見のジャンパーとか頂いてね。良くしてくれましたよな。だから気持ちよく住めたよな。

陽平..そうそう(笑)。それで使わな

やけど、歯を磨いたらキユツと閉める癖が(笑)。疲れていたりとか、慌てていたりするとね。

陽平..凍った日には、まあ喧嘩です。どっちが閉めたんだって(笑)。

陽平..そのシビアな感じが水に関しては無いと絶対。まあ、色んなパターンがあると思うけど、古民家にしてもお金を掛けて、全部工務店さんに任せて一気に綺麗にして快適に暮らすのも一つやしな。

陽平..僕らは経験もなくて、生きることに必死やっただけど、やつてみなきゃ分からないことの方が多いですよ(笑)。

社会と触れる選択肢

陽平..私が好きだから布が集まってくるとして、余っている布、廃棄するサンプルの反物とかを提供してくれる方達がいるので、それを引きこもりの子、障害がある方、育児中の方、介護している方でパートに出るのが難しい方とか、そういう人達の仕事に繋がるようなシステムや商品を作りたいというのがあって、障害のある方、盲ろうの方が、どういう物だったら織れるのか、三年ぐらいずっと話ししながら進んでいます。自立まではなかなか難しいとは思ってますが、今、メイ、手、足が不自由なんです。でも道って、座って、もう早く織りたくて仕方ないっていう方なんです。そういう方たちの喜びとか生き甲斐とかになつたらいいなって。社会と切り離されてしまう人達

いだらうと思つていた宅建がようやく目の目を見て自分で登記したんですよ。

陽平..4月に引越してきてね。

陽平..屋根も自分で貼ったかたんやけど、やっぱり素人が貼るのは難しいからって。業者さん探して、そんなお金持ってなかったんやけど、じゃあお願いしますって、頼んだ後に親に腰をかじつたっていう(笑)。

陽平..親に家買うことも言つてなかったんですよ。いきなり既に見つたんやけど(笑)。でも屋根の工事はめっちゃめっちゃ時間掛かっただけです。

陽平..時間掛かっただけというか、業者がタイミング悪く梅雨時に工事を始めたんですよ(笑)。

陽平..お爺ちゃん達だったんですよ。とにかく安くするために、ストックしてあつた瓦集めてもらってね。

陽平..そんで元からあつた瓦を処分するのにもお金掛かる言われて、それやったら置いて下さい言つて。最初その瓦でビザ案作って、五右衛門風呂作つたのが5年で、1年前でね。その頃は薪がないので、腐材がこの家に沢山あつたんで燃やしてたんやけど、薪の入手って難しくて、製材所に行って貰いに行くんやけど自分でだけないじゃないですか。薪って何か持って行くけど、向こうとしてもお金にしていると思うし、だからちよつとやり難いなって。

陽平..なんだかんだ貰つたりして有難

いことであつたけど。家壊すとか改装する時に声掛けてくれて、いるやろみたいなね。ほんまに言つたらあれやけど、ガチャってゴミみたいな感じで山積みでね。それをどんどん燃やしたよな。

陽平..その頃はお金を使わずに生きていけないかかっていうことに挑戦したかたんですよ。

陽平..どこまでできるかっていうゲームみたいなところあつたよな。

陽平..それが面白かつたよな。

陽平..最小限に使って最小限に稼いでいる部分があつたし、それをずっと続けようと思つてないけど、何も考えてないよな。すぐ終わろうとも思つてないし、ただそれが面白かつただけ。あるもんで何とかする。

陽平..無鉄砲にやっていたね。

陽平..勢いだよな。とにかく何もかも。

陽平..でもまあ、やらなきゃよかったと思つたことはないです。いろんな大変なことがあつたけど後悔とかは全くなくて、その時にやっぱり自分の気持ちに嘘はないし、妥協みたいなことなかつたんじゃないですかね。今考えても。

陽平..若かつたね。そもそもね(笑)。

陽平..やっぱり実際問題、田舎に移り住んで離婚したカップルって何組

が世の中にいる。一般的には見えない場所にいる。私の弟も小学校からずっと引きこもりだったんですよ。ずっと家の中で人と触れ合わずにいる人って世の中にもたくさんいるって思うところ、色んな重圧の中で、どうしていいか分からない。そういうの、弟を見ていて、年が離れていって、私が何とかしたいっていう気持ちがあった。今、弟は普通に働きには出ていますが、その気持ちは私の中では変わってないんで、社会の歯車から何かしら離れてしまった人と繋がりを持ってもらいたいなと、繋がりたいたいと思つています。

陽平..今は木こり、空師という仕事をしつつ、木工旋盤をしているんですけど、この暮らしを始めて自分の性格が変わってきたし、自給自足して、今日一日やっけても自給自足やし、一年間やっけても自給自足。

陽平..死ぬまでやっけても自給自足。続けるってことはすごく立派だと思うんですけど、そっからの広がりがあんなにない。例えばお金って便利やなって改めて思つたのがこの仕事を始めてからで、色んなところが行方っていうのがだんだん面白くなつてきて。この仕事を始めた時は一人でどれくらい仕事をこなせるかっていうところに、自信じゃないけど、そういうところに重きを置いていたんですけど、自分が仕事をもつて、仲間に一緒に仕事をしてもらって、一緒に仕事をすることになった。最近すごく楽しいんですよ。この仕事をしてるから新しい出会いも生まれて。僕、もともと人があんまり好きじゃないんですけど、だからこの自給自足っていうのを選んで、だから空師を続けたい。その縁っていうのがやっぱりすごい財産やなって改めて最近思うし、それを大事にしながら生きていけばいいって思つています。さつきも言つたみたいの後悔ないんですよ。僕、この暮らしを始めてから。だからずっと幸せなんです。だからどうなりたいて聞かれたら、どうしても幸せになりたいとか、そういう話になつちゃうけど、今を継続したいっていうのが今後の目標なんです。だから幸せなまま、後悔しないまま最後まで。最後までって未だ分からないけど、うん、そうなればいいなって思っています。

(2021年12月・和歌山県にて)

FREE PAPER

紙の自由



主に東京で限定的にホステイングされるフリーペーパー「Edition」。市井の人々の熱いライヴストーリーをお届けしています。あなたのグッと刺さるお話をお聞かせください！採用された方は「Edition」に掲載させていただきます。また本紙版と連動した「Edition」公式のInstagram や Youtube などWEBコンテンツを公開中です。左記 QR コードよりアクセス下さいませ。

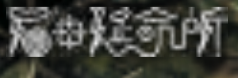
広告主募集 FREE JEI

フリーペーパーEditionに
広告を掲載しませんか？
03-5328-1700 PAPER

Edition



Special Thanks



Look at it!

(Instagram)
kikori.kimura
木村陽平

ubupuph
Aya_K_ubupuph

